

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年4月20日）

この日は、今年度最初の活動日でした。ここのところ20人くらいの活動が続いていたので、今回もそのくらいかなと考えていたのですが、申込みの締め切りに設定されていた日の前に「バスの定員に達したので締め切ります。」というメールが。実際、この日は38人の参加者が集まり、賑やかな交流活動になりました。参加者は学生が17名、市民の方が20名、教員が1名です。約3分の1の参加者が初めて参加するということでした。予定通り7時15分には弘前大学正門前を出発。順調にバスは進み、ほぼ予定通りに野田村に到着しました。



道の駅「おりつめ」での集合写真

この日の活動は大きく2つのグループに分かれて行いました。

1つ目のグループは、野田中学仮設住宅集会所であんよセラピーと交流茶話会です。到着した時には誰も参加者が来ていなかったのですが、市民の皆さんが仮設住宅を1軒1軒回って声掛けをしてくれました。その結果、午前中は10人前後の方が参加してくださいました。非常に打ち解けた雰囲気、部屋の至る所から笑い声上がる和やかな交流ができたと思います。昼食後、午後は、一転して参加して下さった方は1人だけでした。その代り、参加者同士の交流が行われたようです。こちらにも笑顔あふれる交流でした。



交流茶話会の様子。笑顔が広がっています。

もう1つのグループは、「かまどのつきや」さんで農作業等のお手伝いです。最初に、販売所で「看板娘」（販売の手伝い）をするグループ、ほうれん草を調理するグループ、畑でほうれん草の収穫をするグループ、そして物置の2階からから豆類などを下ろすグループに分け、それぞれの活動を行いました。販売所のお手伝いをするグループは、ほうれん草の調理などを手伝った後、販売所で売り子さんとして働き、残りの時間は次の日に産直で販売するネギの包装作業などを行っていたようです。2階から荷物を下ろすグループは作業が終わった後畑に向かい、ほうれん草の収穫をするグループに合流し、一緒に作業をしたそうです。お昼を挟んで午後は、ほうれん草の収穫をするグループは、今度は畑にもみ殻を撒く作業に従事しました。かなり広い畑での作業だったようです。「もみ殻地獄だった…」という感想も聞かれました。



ほうれん草の調理のお手伝い



物置から豆を運び出している様子



児童クラブでの子どもたちとの交流。時間は短かったですが…。

この日の活動は元々児童クラブの学習支援を計画していましたが、小学校が授業参観日で児童クラブが14時からしか開けず、実際に子どもたちが来るのが15時頃ということで、学習支援は断念したという経緯がありました。しかし、急遽、前日から野田入りしていた李先生より学生数名を児童クラブに連れて行って欲しいという要請があり、13時30分を過ぎた頃、仮設住宅集会所から女子学生3名を連れて徒歩で児童クラブに向かいました。14

時過ぎに到着すると、子どもたちが待っていてくれました。指導員の先生とも少しお話したのですが、子どもたちは学生が来るのを楽しみにしていること、わざわざ学生が来る日に合わせて来る子もいることなどを伺いました。今後は、できるだけ学校の行事と重ならないように活動日を再考する必要がありそうです。結局遊ぶ時間は 1 時間程度しかなく、子どもたちは不完全燃焼だったかもしれません。

恒例行事ですが、帰路のバスの中で参加者全員に今回の活動の感想をお聞きしたので、その中のいくつかをご紹介します。農作業に参加した方からは、「思っていたのと場面は違ったが、気持ちいい汗をかけた。素晴らしい時間だった。」「やりたいことが別にあったが、ニーズに合ったことはやれたと思う。第一歩が記せたのでよかった。」「これまでの学生生活で人のために何かをすることがなかったので、参加できてよかった。」という声が、また交流茶話会に参加した方からは、「始まる前はどんな顔をして接すればいいのかと思っていたが、話すだけで笑顔になれた。楽しい時間だった。」「皆さんの笑顔で元気をもらった。」という感想が聞かれました。一方で、活動の意図を私が十分に伝えることができなかったのが原因だと思いますが、「もう少し仮設に入っている人のためのボランティアがしたかった」「活動をしたという実感が湧かない」という不満の声も聞かれました。

事務局に関する話題を 2 つほど。今回は、一昨年度の事務局を担当してくれた齋藤伸夫君が市民として参加してくれ、昨年度の事務局の日野口早希さんも三沢から駆けつけてくれました。また、東京に移られた山口恵子先生も調査等のために野田村にいらして、ボランティアセンター事務局の同窓会のような感じでした。これも 3 年目を迎えたボランティアセンターの楽しみの一つかもしれません。このような野田村を接点とした繋がりが続いて行ってくれるといいなと思いました。

2 年生の新井亜利紗さん、丹藤博孔君、中村蓮大君のフレッシュな 3 人が今回の学生事務局を務めてくれました。先輩たちが卒業して初めて 2 年生だけで進行をしてくれました。バスに乗っている参加者の人数がうまく合わなかったりするなどの初々しいミスもありましたが、全体としてはよく頑張ってくれていたと思います。3 月に卒業した事務局の先輩も、最初は進行がうまく行かず、市民の皆さんの愛ある突っ込みを受けながら成長してきました。3 人もこれから市民の皆さんに育ててもらいながら、少しずつ成長していってくればと思っています。

最後に、今回の活動を通じて、私が最も考えさせられたことを書かせていただいて、報告を終えようと思います。児童クラブに向かう際、野田中の仮設住宅の敷地から出ようとしたところで、仮設に住んでおられる方に声を掛けられ、途中まで一緒に行くことになりました。歩きながらお話を伺っていると、元々は役場近くに住んでいたが、津波ですべて流された、いつも午前には縫い物などをして、午後にゲートボールに行くのが楽しみだったが、それも今はできないということを繰り返し仰っていました。他の地区でゲートボールをやっているチームはあるようですが、そこに入ることは考えておられないようです。「震災前の生活に戻す」ということの難しさを改めて感じました。震災前の繋がりを取り戻すこともそうですが、新しい生活拠点での繋がりをどう構築していくかも大きな課題であるということを実感した今回の活動でした。

(担当 平野潔)